

第266回原医研セミナー

第30回放射線災害・医科学研究 機構・拠点研究推進ミーティング

以下のとおり開催いたしますので、ご参加くださいますよう、ご案内いたします。

開催日時：2025年3月25日（火）17時30分～

開催方法：オンライン

接続先：Zoom(ミーティング)ID：890 6191 5257

Zoom URL：

<https://us02web.zoom.us/j/89061915257?pwd=Uk93L2JWWDJ3dnFkYmkvSjFGN21DZz09>

Zoom パスワード：538773（上記 URL をクリックして参加する場合は入力不要です）

タイトル：放射線リスクコミュニケーター育成のための能動的学習手法に関する研究

発表者：長崎大学 原爆後障害医療研究所 教授 横山須美 先生

原子力・放射線災害時に周辺住民が抱く放射線による健康不安の軽減のために、放射線に関する双方向リスクコミュニケーションは重要な役割を果たす。このような放射線リスクコミュニケーションにおいて、情報提供者は、正確な情報を提供するのはもちろんのこと、情報の受け手の感情を配慮することも重要である。2024年度の放射線災害・医科学研究拠点のトライアングルプロジェクトでは、原子力・放射線災害時の放射線リスクコミュニケーターの育成を目指して学習手法の検討を行った。本研究では、学習者が自ら進んで学習することを支援するために、先行研究で開発した対面型ロールプレイゲームを活用し、提供される情報の正確性、情報の受け手の感情及び有効性の評価結果を学習者が確認できるようなゲームシステムを作成し、2チーム（19名）に対して試行実験を実施した。本発表では結果について報告する。

タイトル：放射線にまつわる不安の背景因子の探索

発表者：広島大学 原爆放射線医科学研究所 計量生物研究分野 助教 廣田誠子 先生

福島第一原発事故から14年が経つが、事故由来の放射線による次世代影響への不安など、科学的根拠の乏しい過剰な不安は未だ払拭されきってはいない。こうした不安には放射線に関する情報の取得媒体や発信源、持っている知識の内容が関わっていることが、福島県立医科大学が長年行ってきた「健康と情報の調査」から示唆されている。しかし、その関係性は単純ではなく、これら以外の要因を含む背景因子の全体像を掴む必要がある。発表者は、情報取得媒体や信頼すべき発信源の選択の嗜好性がどのような因子から決まるのか、得られた知識への受け止め方はどのような因子から決まるのかを知るべく、「健康と情報の調査」を基に、新たに性格や一般的な興味関心、デマへの態度、基本的な科学リテラシー、科学への態度を問う項目等を加えた質問票調査をインターネット及び郵送にて実施した。本発表では、質問票開発の経緯やその過程で行われた予備調査から得られた結果などを紹介する。